



2025年3月期 第2四半期
決算説明会レポート(書き起こし)

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498

2025年3月期 第2四半期 決算説明会レポート

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
- 2025年3月期 通期業績予想

Summary

■ 2025年3月期 第2四半期業績概要

前年同期比二桁増収増益 過去最高売上高・営業利益
高成長牽引サービスが牽引し収益貢献

- ・ 認証・セキュリティ サービス 高成長牽引サービス iTrust伸長しリカーリングが積み上がり増収
- ・ プラットフォーム サービス CentOS7延長サポートが本格収益化し大幅増収、EMLinuxサポート伸長

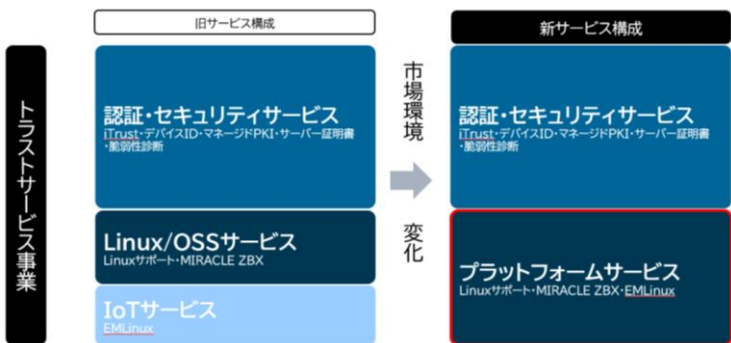
■ 2025年3月期 通期業績予想

売上高 営業利益ともに前期比二桁増収増益を見込む
第2四半期から売上高、営業利益とも拡大し、
通期業績予想達成に向けて順調に進捗

サービス構成の変更について

来期以降の成長も視野に市場環境・顧客ニーズに適したサービス構成変更実施

- ・ DX進展に伴い顧客のトータルニーズへの提案力を強化し、さらなる事業成長を目指す
- ・ 従来のLinux/OSSサービスとIoTサービスをプラットフォームサービスとして統合



■ IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.cybertrust.co.jp/corporate/ir/>





2025年3月期 第2四半期 決算説明会

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498
2024年10月30日

サイバートラスト株式会社代表取締役社長、北村でございます。
本日はお忙しいところ、当社決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、2025年3月期 第2四半期の決算につきましてご説明いたします。

Agenda

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
(サービス構成変更含む)
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - プラットフォームサービス
- 2025年3月期 通期業績予想
- Appendix

本日のアジェンダです。

最初に2025年3月期 第2四半期の業績概要をご説明し、続いてサービス別概況、最後に2025年3月期の通期業績予想のご説明をいたします。

■ エグゼクティブサマリー



2025年3月期
第2四半期業績

前年同期比二桁増収増益 過去最高売上高・営業利益
- 高成長牽引サービスが牽引し収益貢献

2025年3月期
通期業績予想

**第2四半期から売上高、営業利益とも拡大し
通期業績予想達成に向けて順調に進捗**

サービス構成変更

**来期以降の成長も視野に市場環境・顧客ニーズに適した
サービス構成変更実施**

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

3

エグゼクティブサマリーです。

2025年3月期 第2四半期の業績については、前年同期と比べて2桁の増収増益であり、過去最高の売上高および営業利益を達成しております。

2025年3月期の通期業績予想については、第2四半期から売上高、営業利益ともに拡大基調です。通期の業績予想達成に向けて順調に進捗しております。最後に、来期以降の成長も視野に市場関係およびお客様のニーズに適したサービス構成の変更を実施しております。後ほど詳しくご説明します。

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
(サービス構成変更含む)
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - プラットフォームサービス
- 2025年3月期 通期業績予想

まず、2025年3月期 第2四半期の業績概要となります。

2025年3月期 第2四半期(6か月累計) 連結業績の概要



前年同期比で2桁増収増益、過去最高の第2四半期売上高・営業利益

売上高前年同期比 11.8%増 **3,331** 百万円 営業利益前年同期比 27.8%増 **543** 百万円

(単位:百万円)	2024年3月期 第2四半期(6か月累計)	2025年3月期 第2四半期(6か月累計)	前年同期比
売上高	2,981	3,331	+11.8%
営業利益	425	543	+27.8%
経常利益	426	556	+30.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	282	409	+45.1%
EBITDA	722	799	+10.7%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

5

2025年3月期 第2四半期6ヶ月累計の連結業績です。前年同期比で2桁の増収増益、過去最高の第2四半期売上高および営業利益となっております。

売上高につきましては、前年同期比11.8%増の33億3,100万円、営業利益は、前年同期比27.8%増の5億4,300万円となっております。

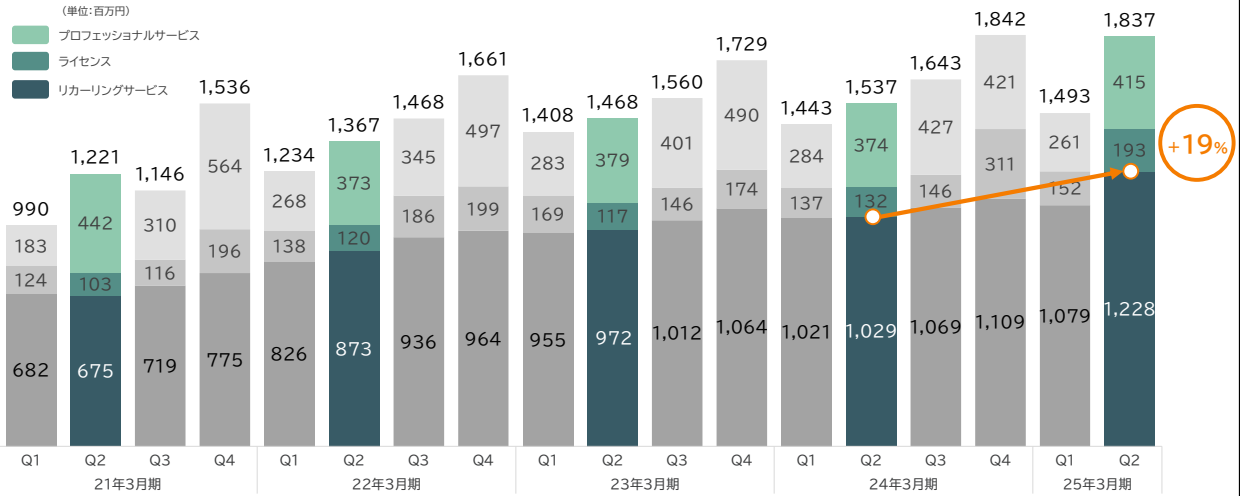
経常利益につきましては5億5,600万円、
当期純利益につきましては4億900万円となっております。
経常利益、当期純利益、EBITDAにつきましても、前年同期比で2桁を超える増益となっております。

取引形態別 四半期売上高推移



Q2リカーリング売上高 大幅伸長

高成長牽引
サービスが牽引



続きまして、取引別取引形態別の四半期売上高推移です。
リカーリング売上高につきましては、高成長牽引サービスが牽引し、前年同
期比19%増の12億2,800万円と大幅に伸長しております。

サービス構成変更について

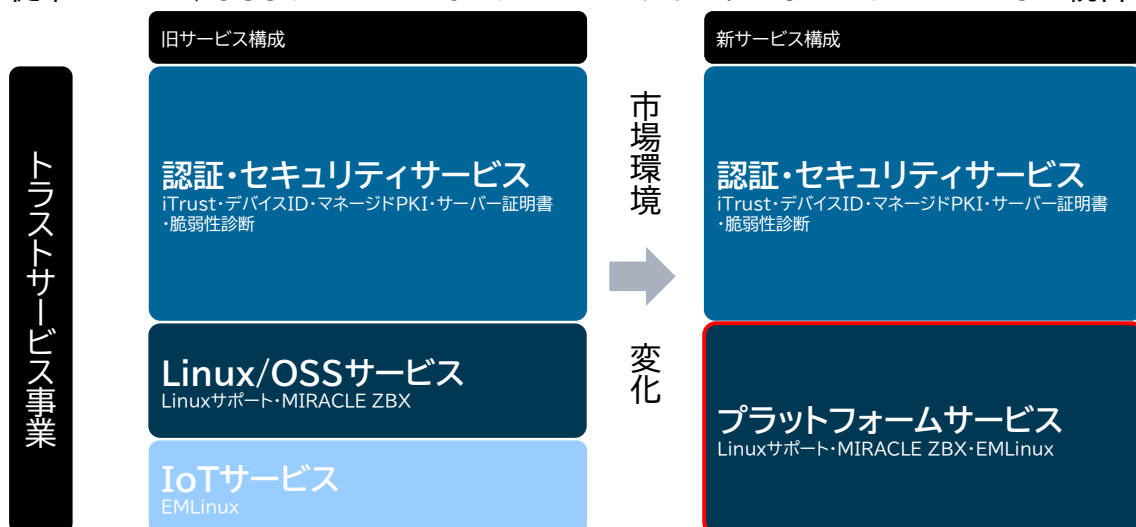
Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

7

続いてサービス構成の変更についてです。

サービス構成の変更について

DX進展に伴い顧客のトータルニーズへの提案力を強化し、さらなる事業成長を目指す
従来のLinux/OSSサービスとIoTサービスをプラットフォームサービスとして統合



Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

8

従来、当社は認証・セキュリティサービスや、Linux/OSSサービス、IoTサービスという3つのサービス構成でビジネスを展開しておりました。
このような中、DXの進展に伴って主にお客様のインフラに関わるIoT機器の組み込みOS、あるいはサーバーも含めてプラットフォームという観点からの提案を求められる機会が非常に多くなっております。

特に私どもが注力している重要インフラにつきましては、その傾向が顕著です。顧客のトータルニーズや、社会的環境・市場環境に的確に対応して更なる事業成長を目指すため、Linux/OSSサービスとIoTサービスをプラットフォームサービスとして統合することに至りました。

サービス別 売上高実績(6か月累計)

- 認証・セキュリティ 高成長牽引サービス iTrust伸長しリカーリングが積み上がり増収
- プラットフォーム CentOS7延長サポートが本格収益化し大幅増収、EMLinuxサポート伸長

(単位:百万円)	2024年3月期 第2四半期(6か月累計)		2025年3月期 第2四半期(6か月累計)		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
認証・セキュリティ サービス	1,844	61.9%	1,865	56.0%	20	+1.1%
プラットフォーム サービス	1,136	38.1%	1,466	44.0%	329	+29.0%
売上高合計	2,981	100%	3,331	100%	350	+11.8%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

9

サービス別の売上高実績です。まず認証・セキュリティサービスにつきましては、高成長牽引サービスのiTrustが引き続き伸長しており、18億6,500万円と増収傾向です。

またプラットフォームサービスにつきましては、CentOS7の延長サポートが本格的に収益化し、大幅に増収しております。

さらに、IoT機器向けの組み込みOSであるEMLinuxサポートが伸長したことによって、第2四半期累計の売上高は14億6,600万円と、前年同期比29%増と引き続き大幅に成長しております。

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
(サービス構成変更含む)
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - プラットフォームサービス
- 2025年3月期 通期業績予想

続きましてサービス別の概況です。

高成長牽引サービスiTrust成長しリカーリング伸長

(単位：百万円)

認証・セキュリティサービス売上高 (取引形態別)	24年3月期 2四半期 (6か月累計)	25年3月期 第2四半期 (6か月累計)	前年同期比
リカーリングサービス (リカーリング比率)	1,538 (83.4%)	1,598 (85.7%)	+3.9% (2.3ポイント)
ライセンス	97	75	△23.1%
プロフェッショナルサービス	208	191	△8.1%
売上高合計	1,844	1,865	+1.1%

リカーリング比率85.7% (前年同期比+2.3pt)

- 高成長牽引サービスのiTrustは、金融機関向けeKYCサービスや電子契約サービスで伸長し前年同期比26.2%増 (前年同期比34.1%増:前年同期の一過性要因※除外の場合)
- デバイスIDは、企業向けのクラウド認証サービス伸長
- SureServerは顧客契約形態変更の影響等で減収
- 収益基盤の強化に向け、高成長牽引サービスを中心にリカーリングサービスに注力した結果、取引形態別売上構成比が想定通り進捗

※24年3月期Q2及びQ3に特定の自治体の給付金申請に伴うマイナンバーカードを用いた本人確認の一過性のトランザクション増加要因

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

11

最初に認証・セキュリティサービスについてご説明いたします。高成長牽引サービスのiTrustが成長し、リカーリングサービスの売上高は前年同期比3.9%増の15億9,800万円と引き続き伸長しております。

特に金融機関向けのeKYCや、電子契約サービスにおいて大きく伸長しており、前年同期比では26.2%の増加です。前年同期の一過性要因を除外した場合には34.1%の増加となります。

またデバイスIDにつきましては、パートナー企業向けのクラウド認証サービスにおける利用数が引き続き増加傾向にあり、伸長している状況です。

一方、サーバー証明書のSureServerは、お客様側でのライセンス集約など顧客契約形態の変更の影響で減収となっておりますが、iTrustやデバイスIDの増収傾向が補うことでプラスアルファの成長という状況でございます。

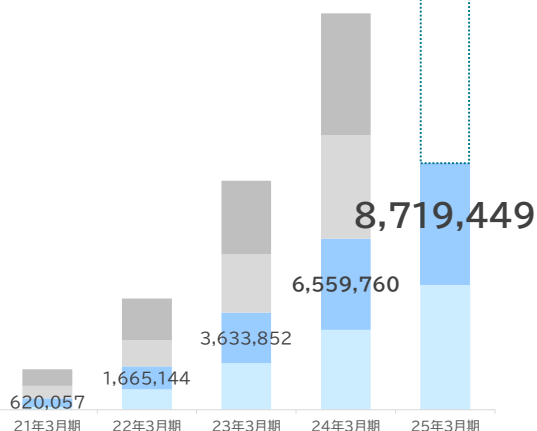
認証・セキュリティサービスの収益基盤の強化に向けてリカーリングサービスに注力する中、取引形態別売上高の構成比率につきましては、今期85.7%と想定通りに進捗しております。

■ 高成長牽引サービス iTrustのKPI四半期推移

iTrustのトランザクション数(有償API利用件数)伸長

(単位:回)

■ Q1 ■ Q2 ■ Q3 ■ Q4



利用件数 **871万件**/四半期

前年同期比 **1.3倍**

圧倒的実績を有するトラストサービス

※ 2024年9月末時点自社調べ

12

続きましてiTrustのKPI四半期推移です。第2四半期の利用件数は前年同期比で200万件以上を上回る871万件と、1.3倍の成長をしている状況です。

iTrust(本人確認)の利用範囲の拡大に向けた取り組み

本人確認のニーズ拡大

様々な手続きのデジタル化が進む中で
法整備が進み
本人確認をデジタル化するニーズが拡大



※：(参考)2024/4/24「2024年3月期 決算説明資料」抜粋(P19)

これまでの継続的な当社取り組みが
市場動向や顧客ニーズと適合し
着実にトランザクション増加

採用事例

本人確認のデジタル化・厳格化が進む
金融機関や通信会社が採用

大手メガバンク

通信キャリア

地方銀行

スマホ決済
暗号資産取引

金融業や通信業を中心に
オンライン/対面での利用場面拡大で
トランザクション増加

※：(J-LIS)失効情報を提供している民間事業者について

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

13

iTrust (本人確認) の利用範囲拡大に向けた取り組みです。本人確認のニーズが拡大する中、様々な手続きのデジタル化が進んでおります。また、法整備やデジタル化、本人確認の厳格化が進んでおり、特にマイナンバーカードを活用した本人確認サービスのニーズが拡大しております。

当社サービスの採用事例としては、厳格化が進んでいる金融機関や通信会社が挙げられます。従来のオンラインのみならず、対面における利用場面の拡大でも、トランザクション増加要因として当社の業績に寄与すると考えております。

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
(サービス構成変更含む)
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - プラットフォームサービス
- 2025年3月期 通期業績予想

続きましてプラットフォームサービスです。

CentOS延長サポート7月より本格収益化 想定を上回り進捗

(単位：百万円)

プラットフォームサービス売上高 (取引形態別)	24年3月期 2四半期 (6か月累計)	25年3月期 第2四半期 (6か月累計)	前年同期比
リカーリングサービス	512	708	+38.4%
ライセンス	172	271	+57.2%
プロフェッショナルサービス	451	485	+7.6%
売上高合計	1,136	1,466	+29.0%

- CentOS延長サポートは6月コミュニティサポート終了に伴い、期初想定通り7月より本格収益化
これまでのパートナーネットワーク強化の取り組み奏功し
期初想定を上回りリカーリング大幅伸長
 - 第2四半期サポート契約数は第1四半期比3倍(新規案件が7割)
 - 第2四半期も新規案件獲得し、受注額6億円超え
- CloudLinux社と連携して提供したCentOS延長サポートなどによりライセンス大幅伸長
- 次の成長に向けCentOS延長サポートの顧客に対してAlmaLinuxなどのクロスセル提案開始
- EMLinuxサポートは重要インフラ15分野・自動車を中心に採用拡大し倍増

CentOS延長サポートが2024年7月より本格的に収益化しております。業績につきましては、想定を上回る進捗状況です。パートナーネットワークの強化に取り組んできた結果、期初想定を上回り、リカーリングサービスは前年同期比38.4%増の7億800万円と大幅に伸長しております。

契約件数は第1四半期と比較して第2四半期は3倍と大きく伸びており、その内訳として新規のお客様が7割とビジネスの機会が大きく拡大しております。また第2四半期（7月以降）に獲得した案件もあり総受注額としては6億円を超える状況であり順調に進捗しております。

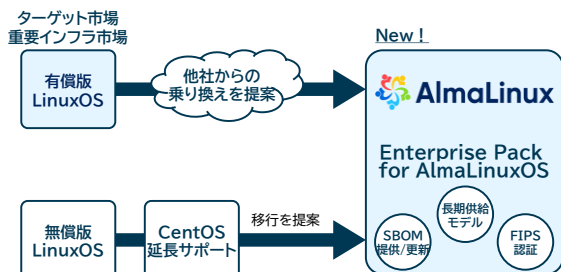
加えて、CloudLinux社と連携して中小企業向けにライセンス形態として提供しているCentOS延長サポートにより、ライセンスは前年同期比57.2%増の2億7,100万円と大幅に伸長しております。

当社としては、次の成長に向けてCentOS延長サポートに関わる新規のお客様に対し、AlmaLinuxの移行や当社が提供しているセキュリティに関わる付加価値のソリューション、あるいはシステムの可用性を高めるソリューションをご提案することで、更なる成長を目指していきたいと考えております。

また、EMLinuxサポートにつきましては、重要インフラ15分野および自動車を中心に採用が拡大しており、前年比で倍増の状況です。

AlmaLinuxの利用範囲の拡大に向けた取り組み

重要インフラ市場での顧客層拡大



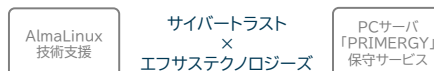
有償版LinuxOSを利用中の重要インフラ事業者に向け乗り換え先として新サービスを提案

PR : サイバートラスト, AlmaLinux に SBOM 対応の独自機能を追加した「Enterprise Pack for AlmaLinux」を提供開始

エフサステクノロジーズとの協業

エフサステクノロジーズ社がPCサーバーの標準OSとしてAlmaLinuxを採用
AlmaLinux長期サポートを提供

ワンストップサポート提供 ~ハードウェアからソフトウェアまで~



社会基盤システムや金融機関など長期運用が必要な企業からの長期サポート契約が拡大

PR : エフサステクノロジーズとサイバートラスト, AlmaLinux を利用したシステムの長期運用の実現に向け協業を開始

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

AlmaLinuxの利用範囲の拡大に向けた取り組みです。CentOS延長サポートからAlmaLinuxへの移行に加え、当社にとって重要なターゲット市場である重要インフラ市場と、既存の有償版OSから当社AlmaLinuxへの乗り換え提案を積極的に推進しております。

当社の強みであるセキュリティ機能、および長期間サポートに加え、昨今話題のSBOMと言われるソフトウェア部品の管理、およびそれに基づいた脆弱性の管理をパッケージにしたEnterprise Pack for AlmaLinux OSという形で提供を開始しております。特に重要インフラ事業者様に向けて、乗り換えを促進するための新しいサービスとして提案を進めております。

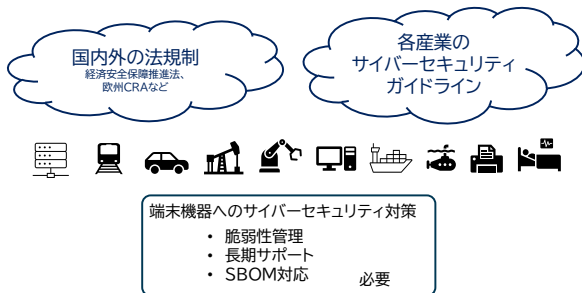
この取り組みの中の1つとしてエフサステクノロジーズ様との協業が実現しております。エフサステクノロジーズ様は、PCサーバーを提供している企業様であり、標準OSとしてAlmaLinuxが採用されました。私どもはAlmaLinuxの長期サポートを提供する形で、エフサステクノロジーズ様においてはハードウェアからソフトウェアまで一貫した長期サポートを提供する体制を構築しております。

今後も社会基盤システムや金融機関といった長期運用が求められる企業様の長期サポートニーズに対応することで、ビジネス拡大に繋げていきたいと考えております。

EMLinuxの利用範囲の拡大に向けた取り組み

国際安全基準に関わる基準・法規制への対応

脆弱性管理、長期サポートが求められる機器での
新規採用・既存顧客の横展開



これまでの継続的な当社取り組みが
市場動向や顧客ニーズと適合し
着実に採用数が増加

注力施策

重要インフラ関連機器、産業制御機器、
モビリティ関連※を中心に
収益拡大に向けて集中的に施策を展開

1. セキュリティサービスの強化

EMLinux採用につながる SBOMコンサルや
脆弱性調査など新たなセキュリティサービスを提供

2. 顧客サプライチェーンへの展開

既存顧客の他事業部に対し横展開
半導体メーカー等のパートナーと連携し共同セミナー開催
サプライチェーン企業に向けて販売拡大

2つの注力施策を
集中的に展開し収益化加速

※自動車に加え農建機、その他搬送機など自動化が進む移動車全般

17

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

続きまして、EMLinuxの利用範囲の拡大に向けた取り組みです。国際安全基準に関わる基準および法規制への対応が強く求められる中、脆弱性管理や長期サポートが求められる機器においては、新規採用や既存顧客の横展開が進んでおります。これまでの当社の継続的な取り組みが、市場動向や顧客ニーズに合致して着実に採用が増加していると考えております。

注力施策として、特に重要インフラ関連機器、産業制御機器、モビリティ関連を中心に、収益拡大に向けた2つの集中的な施策を展開しているところで

1つ目は、セキュリティサービスの強化です。将来的なEMLinuxの採用に繋がるSBOMコンサルあるいは脆弱性調査など、案件の入口になるセキュリティサービスの提供を開始しております。

2つ目は、お客様のサプライチェーンへの展開です。既存のお客様の他事業部への横展開に加え、お客様の取引先様であるサプライチェーン関連企業に当社サービス・製品のコンサルティングを提供することによって、新たな需要を喚起する取り組みを行っております。

今後も、2つの注力施策を集中的に展開することで収益化の加速を目指してまいります。

- 2025年3月期 第2四半期業績概要
(サービス構成変更含む)
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - プラットフォームサービス
- **2025年3月期 通期業績予想**

最後に、2025年3月期の通期業績予想についてです。

第2四半期から売上高、営業利益とも拡大し 通期業績予想達成に向けて順調に進捗

単位:百万円	24年3月期	25年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	6,466	7,200	+733	+11.3%
営業利益	1,112	1,300	+187	+16.9%
営業利益率(%)	17.2	18.1	-	-
経常利益	1,121	1,300	+178	+15.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	518	860	+341	+65.8%
EBITDA	1,716	2,039	+323	+18.8%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

19

第2四半期から売上高・営業利益ともに拡大基調でございます。売上高72億円、営業利益13億円の通期業績予想の達成に向けて、順調に進捗している状況です。

2025年3月期の期初配当予想は、安定配当を継続
1株当たり 17円50銭 を予想

配当
政策

中長期的な企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行い、中長期的視点で事業拡大を図る方針に対して株主の理解を深めていただくため、期末配当として年1回の剰余金の配当を安定的かつ継続的に実施していくことを基本方針とします。

	中間配当	期末配当
2024年3月期実績		17円50銭
2025年3月期予想	0円00銭	17円50銭

2025年3月期の期初配当予想になります。

当社は企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行う方針でありつつも、中長期的な視点で事業拡大を図る方針に対して株主の皆様への理解を深めていただくために、期末配当として安定的かつ継続的に配当を実施していくことを基本方針としております。

その方針に従いまして、2025年3月期の期初配当予想は安定配当を継続という観点から、1株当たり17円50銭を予想しております。



すべてのヒト、モノ、コトに 信頼を

以上が2025年3月期 第2四半期の説明となります。ご清聴いただきありがとうございました。